

## 8 リテラシー教育の実績

### 8.1 リテラシー教育の実施

#### (1) 図書館活用法※1

\* 半期2単位（駿河台：春学期，生田：秋学期，和泉：2006年度より春学期・秋学期に開講，中野：2019年度より開講なし）

		2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
中央図書館	履修者数	50	73	67	36	66	57	49	40	49
	開講数	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	授業回数 ※2	14 (10)	15(11)	15(13)	15(11)	15(11)	14(10)	14(10)	14(8)	12(6)
	担当講師数 ※3	13 (9)	14(10)	14(10)	15(12)	13(11)	13 (8)	13 (8)	14(10)	12(8)
和泉図書館	履修者数	253	244	240	315	331	295	306	153	175
	開講数	4	4	4	4	4	4	4	2	2
	授業回数 ※2	56 (40)	60(44)	58(42)	56(40)	58(46)	56(36)	56(32)	28 (16)	28 (16)
	担当講師数 ※3	24 (22)	24(22)	29(27)	27(25)	27(25)	29(23)	27(24)	21 (19)	21 (18)
生田図書館	履修者数	36	26	36	29	27	76	36	27	46
	開講数	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	授業回数 ※2	14 (10)	15(10)	15(10)	15(10)	14(9)	14(6)	14(6)	14(6)	14(5)
	担当講師数 ※3	9 (6)	9(6)	10(6)	9(6)	10(6)	12(6)	13(7)	12(6)	11(5)
中野図書館	履修者数		11	10	16	32	4	9		
	開講数		1	1	1	1	1	1		
	授業回数 ※2		15 (10)	15(10)	14(10)	15(10)	14(9)	14(8)		
	担当講師数 ※3		8 (5)	8(5)	7(5)	8(5)	8	7(3)		
履修者総数		339	354	353	396	456	432	400	220	270

※1 2000年開講。2020年度はコロナ禍によりオンライン授業で実施。  
 ※2 カッコ内の数字は職員が担当した回。ただし、教員とともに担当した回は除く。  
 ※3 複数のキャンパスを担当した場合はそれぞれに計上。カッコ内の数字は職員。

#### (2) ゼミツアー \*フリーツアー（すべての利用資格者対象）含む

		2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
中央図書館	回数	62	62	56	61	59	60	62	66	0
	履修者数	851	714	617	620	719	725	749	754	0
和泉図書館	回数	263	195	170	169	150	134	123	142	0
	履修者数	3,278	2,864	2,741	2,999	2,902	2,432	2,405	2,656	0
生田図書館	回数	38	25	21	18	13	23	23	20	12
	履修者数	184	167	218	211	132	261	272	237	354
中野図書館	回数		28	21	20	28	20	18	13	29
	履修者数		396	255	265	361	308	238	141	-

#### (3) 出前講義 \*「図書館活用法」を除く教室授業，図書館以外施設授業など

		2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
中央図書館	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	履修者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
和泉図書館	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	履修者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生田図書館	回数	8	8	8	10	18	18	18	12	12
	履修者数	300	286	286	422	384	405	417	311	407
中野図書館	回数		3	2	2	3	3	9	10	0
	履修者数		22	30	40	50	71	216	225	0

**(4) 各種講習会** \* 情報・文献検索講習会, DB 講習会, テーマ別講習会, グループガイダンスなど

		2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
中央図書館	回数	19	19	20	18	20	4	10	2	0
	参加者数	221	196	222	190	107	9	73	7	0
和泉図書館	回数	59	51	40	22	19	8	5	8	0
	参加者数	397	260	384	291	147	101	145	186	0
生田図書館	回数	22	10	23	8	1	2	13	18	2
	参加者数	71	200	197	121	7	62	320	1,026	121
中野図書館	回数		17	23	10	4	4	6	8	0
	参加者数		80	68	84	11	9	9	18	0

**(5) オリエンテーション** \* 新入生, 新任教員, 三年次, 留学生など

		2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
中央図書館	回数	8	8	13	12	10	7	8	7	0
	参加者数	1,404	1,132	970	893	1,148	1,278	1,094	163	0
和泉図書館	回数	12	8	8	7	11	13	13	12	0
	参加者数	5,232	4,987	5,196	5,677	5,093	7,881	5,222	5,206	0
生田図書館	回数	4	4	4	6	4	4	4	4	0
	参加者数	1,640	1,632	1,698	1,595	1,612	1,612	1,562	1,708	0
中野図書館	回数		6	5	5	7	8	8	6	0
	参加者数		890	627	665	784	889	806	739	0

**(6) 見学・視察** \* 各種団体, 個人, 学校など

		2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
中央図書館	回数 ※1	140	134	100	95	88	97	11	46	0
	参加者数	3,785	4,088	3,229	3,108	3,027	3,302	843	1,792	0
和泉図書館	回数 ※1	118		140	88	54	54	47	58	0
	参加者数	3,502	2,099	3,791	2,134	2,829	2,829	2,139	1,530	0
生田図書館	回数 ※1	1		0	3	2	2	1	1	0
	参加者数	532	232	285	2,972 ※2	453	453	516	293	0
中野図書館	回数 ※1		43	31	13	3	7	3	5	0
	参加者数		2,083	1,638	3,089	2,625	2,718	2,277	1,034	0

※1 個人での見学は含まない

※2 オープンキャンパスの参加者数を含む

## 8.2 全学共通総合講座「図書館活用法」

### 《春学期》

### 駿河台キャンパス

科目ナンバー: OPIND111J		コーディネーター	
図書館活用法		経営学部 長野 史麻	
駿河台	2単位 春学期	火曜日 4時限	
<b>1 授業の概要・到達目標</b>			
1. 図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書館の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになる。(図書館リテラシー)			
2. さまざまな情報、文献、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようになる。(情報リテラシー)			
3. 入手した情報、文献、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになる。(学術リテラシー)			
4. 就職活動に役立つ企業情報入手できるようになる。			
<b>2 授業内容</b>			
① 4月14日	イントロダクション (講義の概要、成績評価方法等の説明)	経営学部専任教授 長野 史麻	中央図書館事務長 丸山 郁太郎
大学で学ぶには、図書館を利用することが不可欠です。図書館の膨大な蔵書は、豊かな教養、深い見識を養ううえでも貴重なものといえます。初回では、まず大学図書館の役割や重要性を明らかにしたうえで、「図書館活用法」という授業科目の意義、内容、レポート提出、成績評価などについて説明します。そして後半では、中央図書館事務長より明治大学図書館の概要や中央図書館の設備やサービスを中心に紹介し、図書館の魅力を引き出していきます。			
② 4月21日	図書館ツアー (図書館の概要とバックヤードツアー)	図書館職員 松並 康子・鈴木 世津子	
大学図書館の施設やサービス、資料の特徴を知り、それらの利用方法を理解することは、大学図書館の存在意義を理解することの第一歩です。この回では、前回は引き続き図書館の概要説明を行った後、実際に館内を回り理解を定着させます。さらに、普段は見ることのないバックヤードへのツアーを行い、大学図書館の業務がどのようなプロセスで行われているかを紹介します。			
③ 4月28日	レポート・論文の作成方法	経営学部専任教授 長野 史麻	
レポート・論文は、自分の調査・研究内容について論理的に記述し、公表し、他者の理解を得るために書かれます。大学教育ではレポート・論文の作成が重視されており、この授業ではその作成方法について説明します。また、先行研究を調べることの大切さ、著作権を意識した書き方などについても取り上げます。			
④ 5月5日	図書館と著作権	情報コミュニケーション学部専任教授 今村 哲也	
学習、研究、論文・レポートの作成においては、多くの図書や雑誌(論文)、インターネット上の情報も利用します。これらの著作権・情報の利用にあたっては、「著作権」について十分理解しておく必要があります。この講義では、著作権法の概要、著作権法に沿った図書・情報の適切な利用方法を学びます。			
⑤ 5月12日	研究と図書館	経営学部専任講師 平尾 伸洋	
研究にとって、数多くの図書や論文、データなどを利用することは不可欠です。そこで、教員や大学院生の研究活動に図書館がどのように関わっているのか、特に論文作成する際に図書館を活用することがいかに重要であるかについて説明します。			
⑥ 5月19日	書物の楽しみ	経営学部専任教授 野田 寛造	
書物の楽しみは、その場にながらみながら様々な書物を体験できるということがあります。現在の社会では他国の文化に理解を深めることが益々重要になってきています。いくつかの書物を紹介しながら、一層にお隣国の習慣や言葉の違いに触れてみたいと思います。			
⑦ 5月26日	学術情報・図書館の最新動向	図書館職員 矢野 恵子	
図書館や学術情報をめぐる現在の状況・問題と課題を知り、問題の背景を理解し、今後の学術情報のあり方について考えます。最新動向を踏まえたテーマを取り上げます。			
⑧ 6月2日	文庫・情報の探し方(1) 文庫情報概論、図書館の入手と利用【演習】	図書館職員 杉谷 美和	
図書や雑誌など資料の形態にはいくつかの種類があり、それぞれ役割や特徴があります。学術情報の流通過程を理解し、各資料をよりよく活用できるよう解説します。また、図書の検索と入手の仕方を学びます。なお、この講義の受講前に、図書館OPACの基本的な検索方法を各自学習しておくください。			
⑨ 6月9日	文庫・情報の探し方(2) 雑誌・論文情報の入手と利用【演習】	図書館職員 小野 聡	
研究発表は最初に確認で公開されることが多く、最新の知見を取り入れるためには、雑誌論文の活用が不可欠です。本講では論文データベースの検索、参考文献リストからの論文探索、入手した論文で参考文献リストを作成する等の演習を通じて、雑誌論文を効率的に探し、入手する方法を学びます。			

### 和泉キャンパス

科目ナンバー: OPIND111J		コーディネーター	
図書館活用法		文学部 齋藤 泰則	
和泉	2単位 春学期	水曜日 5時限	
<b>1 授業の概要・到達目標</b>			
1. 図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書館の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになる。(図書館リテラシー)			
2. さまざまな情報、文献、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようになる。(情報リテラシー)			
3. 入手した情報、文献、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになる。(学術リテラシー)			
<b>2 授業内容</b>			
① 4月8日	イントロダクション (講義の概要、成績評価方法等の説明)	文学部専任教授 齋藤 泰則	和泉図書館事務長 永井 順子
本講義は、大学での学習に不可欠な図書館活用法に必要な知識とスキルの習得を目指すことに、雑誌・索引、辞書・事典類などのレファレンス資料に関する知識と検索の技法について取り上げます。さらには、特定の課題に関するレポートの作成のために必要な情報や知識および文献の検索法について解説します。最終的には、検索・入手された文献(図書や雑誌記事・論文)をもとに、レポートの作成をめざします。また、成績評価について説明します。			
② 4月15日	図書館の機能と情報資源	文学部専任教授 齋藤 泰則	
大学図書館は、研究教育に必要な情報資源を選択、収集・組織・蓄積・提供するにとり、学生の学習を支援する施設です。この回では、大学図書館の基本的な機能と図書館情報資源に関する基本的な知識とスキルについて取り上げます。さらには、ある特定の課題に関する文献を探索するために必要な探索戦略の構築が可能なスキルの習得を目指します。			
③ 4月22日	レポート・論文の作成と図書館情報資源の活用	文学部専任教授 齋藤 泰則	
レポート(論文)の作成過程は、課題の設定と焦点化に始まり、情報の探索と収集、情報の加工をとおして情報の生産と発信に至る過程です。このレポート作成過程の各段階において必要な専門知識や情報入手のために必要な辞書や専門書等の活用、および雑誌・索引・目録を利用した専門図書や雑誌記事・論文の検索とその入手について解説します。また、レポートの執筆要領(引用文献の記述方法を含む)についても詳しく取り上げます。			
④ 4月29日	図書館サービスと著作権	文学部専任教授 齋藤 泰則	
この授業では、レポートや論文の執筆時に活用する図書、雑誌記事・論文、インターネット上の情報資源の利用にあたり、理解が求められる著作権法を取り上げます。具体的には、法の概要を把握し、法に照らして図書館が扱う資料・情報資源の利用の仕方を学びます。あわせて、レポートや論文で、他の文献を引用する際の理解も目指します。			
⑤ 5月6日	図書の歴史と図書館	文学部専任教授 三浦 太郎	
図書の保存・利用の場として、図書館は歴史のたもとに発展し現在に至っているのでしょうか。古代・中世・近世・近代それぞれ異なる時期、洋の東西を問わず、図書館にはさまざまな姿がありました。ここでは、日本の江戸期から明治期にかけての図書館(文庫)を取り上げ、その特徴について理解したいと思えます。			
⑥ 5月13日	文庫・情報の探し方(1) 図書①【演習】	図書館職員 松並 康子・島崎 朝子	
明治大学図書館蔵書検索システム(Web-OPAC)の検索方法、検索結果である目録・分類、請求記号や配置場所などのデータの読み取り方を身につけて、図書館の蔵書を効率よく使いこなせるようになります。また、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。			
⑦ 5月20日	文庫・情報の探し方(2) 図書②【演習】	図書館職員 松並 康子・島崎 朝子	
前回の内容をふまえ、本学図書館に所蔵しない資料を検索する方法や、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。			
⑧ 5月27日	文庫・情報の探し方(3) 雑誌論文①【演習】	図書館職員 小倉 さなえ・平田 さくら	
図書と雑誌の違いを理解したうえで、OPACの雑誌論文検索ツール、雑誌所蔵データの読み取り・説明を行います。説明には雑誌特有の記号配置、一括所蔵情報などを含みます。さらに雑誌の利用方法の説明も行います。このことにより効率よく雑誌を探し出し利用できるようになります。			
⑨ 6月3日	文庫・情報の探し方(4) 雑誌論文②【演習】	図書館職員 小倉 さなえ・平田 さくら	
図書館の蔵書を検索するOPACでは、雑誌でも検索することはできません。論文・記事単位での検索を行うためには、OPACとは別の検索ツールを使う必要があります。その検索ツールの説明・演習を行います。このことにより、皆さんが必要とする論文を最早(簡単に)探し、入手することができるようになります。			

⑩ 6月16日	文庫・情報の探し方(3) レファレンス情報と新聞記事・企業情報の入手と利用【演習】	図書館職員 飯塚 貴子	
レファレンス資料にはどのようなものがあり、どのように活用できるか解説します。また新聞と新聞記事の特徴を知り、どのようなこと調べられるのか新聞を見ながら理解します。そして、これらの資料を使った企業情報の探し方を演習を通して習得し、就職活動に役立てられるようになります。			
⑪ 6月23日	文庫・情報の探し方(4) (人社会データベースの紹介と電子情報の現在1)【演習】	図書館職員 西脇 亜由子	
人社会系のデータベースを目的に合わせて使い、必要な情報入手できるように、課題に沿って紹介します。個人ワーク・グループワーク等を交えながら、データベースの用途や特性を理解し、簡単な調査に用いることができますようになります。第12講と連続する内容になっています。			
⑫ 6月30日	文庫・情報の探し方(5) (人社会データベースの紹介と電子情報の現在2)【演習】	図書館職員 西脇 亜由子	
人社会系のデータベースを目的に合わせて使い、必要な情報入手できるように、課題に沿って紹介します。個人ワーク・グループワーク等を交えながら、データベースの用途や特性を理解し、簡単な調査に用いることができますようになります。第11講と連続する内容になっています。			
⑬ 7月7日	文庫・情報の探し方(6) 図書館における情報のあり方(分類と書誌情報、選書基準、情報組織化)【演習】	図書館職員 柴屋 晋	
選書からワーク・配架までの、図書館における一連の本の流れを紹介いたします。さらに、図書館システムとOPACとの関係を中心に、大学図書館における情報組織化の仕組みを理解し、皆さんの今後の図書館利用に役立つよう解説します。また、資料の分類法についても紹介します。			
⑭ 7月14日	まとめ(文庫・情報の入手からレポート・論文の作成へ)と総合テスト a: テスト、b: まとめ	経営学部専任教授 長野 史麻	図書館職員 平田 さくら・小倉 さなえ
あるテーマについて調査し自分の考えをまとめて表現することは、レポート・論文の作成という学習の場に限らず、日常生活においても、また社会に出ても必要な技術です。それを確かなスキルとして身につけるために、最後のまとめとして、これまで学んだ文庫・情報の探し方や著作権等について確認します。			
<b>3 履修上の注意</b>			
講義(既読)と演習を組み合わせて、知識の習得だけではなく活用する術を身に付けることを目指した授業で、各回のテーマを、教員と図書館の職員が分けて担当します。			
演習では、実際にパソコンを操作してデータベースの検索等を行うため、履修にあたっては、MIND利用講習会を受講済みであることを必須とします。			
<b>4 準備学習の内容</b>			
準備として、各回のテーマ、シラバスに記載された内容に関連した確認(本を読む、実際にツールに触れてみるなど)をしてください。また、授業後は、講義内容・配付資料に基づいて振り返り、得た知識を定着させるよう努めてください。			
<b>5 教科書</b>			
教材として印刷資料を配付します。			
<b>6 参考書</b>			
酒井忠博著「これからレポート・卒論を書く者のために」第2版(2017、共立出版、ISBN9784320069803)			
佐藤聖賢著「アカデミック・スキルズ: 大学生のための知的技術入門」第2版(2012、龍溪堂出版、ISBN9784766196003)			
高橋樹著「デジタル情報資源の検索」増訂第5版(2014、京都府立大学図書館学研究会、ISBN9784820413296)			
藤田田子著「図書館活用法: 情報リテラシーを身につけるために」新訂第3版(2011、日外ソシエツト、ISBN9784816929432)			
毛利和弘著「文献調査法: 調査・レポート・論文作成必携: 情報リテラシー読本」第8版(2019、毛利和弘、ISBN9784820418184)			
<b>7 成績評価の方法</b>			
①平常点(25%)、②総合テスト(25%)、③期末レポート(50%)を総合的に判断します。			
なお、第2回~第13回の授業において4回以上欠席した者、②総合テストの未受験者、③期末レポートの未提出者は、成績評価の対象としません。			
<b>8 その他</b>			

⑩ 6月10日	文庫・情報の探し方(5) レファレンス資料【演習】	図書館職員 土田 大輔・久松 薫子	
図書館で所蔵する様々な資料の中には、効率よく調べのするにに適した図書が存在し、参考図書、あるいはレファレンスブックと呼ばれています。学習のための調べものにはインターネット検索だけでは不十分な場合があります。この回では、図書およびオンラインのレファレンス資料を活用して事例や文献について調べ方の方法、また、論文・レポートのテーマ設定をし、その基本情報入手する方法を学びます。			
⑪ 6月17日	文庫・情報の探し方(6) 新聞【演習】	図書館職員 久保 和義・久松 薫子	
新聞は印刷物だけではなくデータベース等を使って検索・閲覧することが出来ます。うまく使いこなせば事例や事件を調べるだけでなく、世論などその時代における空気のようなものもつかえる有用なツールです。この授業では演習を行い、新聞のデータベースを使いこなす技術が身につくよう解説します。			
⑫ 6月24日	文庫・情報の探し方(7) インターネット【演習】	図書館職員 角 祐二・稲田 賢一	
インターネット上の情報の種類、探索方法、特性、評価などについて説明し、検索エンジンについても理解を深めます。また、インターネットを通じて利用する重要な情報として、電子ジャーナル、電子ブック、機関リポジトリについても説明・演習を行います。			
⑬ 7月1日	文庫・情報の探し方(8) (1)~(7)まとめ【演習】	図書館職員 山口 剛枝・畑野 麻子	
これまでの授業で学んだ様々な文庫・情報の探し方を振り返ります。それらを総合的に活用して、あるテーマを調査するために必要な文献を探求を行います。日々の学習や研究に役立つ文献検索技術が身につくよう改めて確認し、自身の調査・授業における弱点を見つけ出し、さらにステップアップできる機会とさせていただきます。			
⑭ 7月8日	まとめと総合テスト a: テスト、b: まとめ	図書館職員 山口 剛枝・畑野 麻子	
あるテーマについて調査し自分の考えをまとめて表現することは、レポート・論文の作成という学習の場に限らず、日常生活においても、また社会に出ても必要な技術です。それを確かなスキルとして身につけるために、最後のまとめとして、これまで学んだ文庫・情報の探し方や著作権等について確認します。			
<b>3 履修上の注意</b>			
講義(既読)と演習を組み合わせて、知識の習得だけではなく活用する術を身に付けることを目指した授業で、各回のテーマを、教員と図書館の職員が分けて担当します。			
演習では、実際にパソコンを操作してデータベースの検索等を行うため、履修にあたっては、MIND利用講習会を受講済みであることを必須とします。			
<b>4 準備学習の内容</b>			
準備として、各回のテーマ、シラバスに記載された内容に関連した確認(本を読む、実際にツールに触れてみるなど)をしてください。また、授業後は、講義内容・配付資料に基づいて振り返り、得た知識を定着させるよう努めてください。			
<b>5 教科書</b>			
教材として印刷資料を配付します。			
<b>6 参考書</b>			
酒井忠博著「これからレポート・卒論を書く者のために」第2版(2017、共立出版、ISBN9784320069803)			
佐藤聖賢著「アカデミック・スキルズ: 大学生のための知的技術入門」第2版(2012、龍溪堂出版、ISBN9784766196003)			
高橋樹著「デジタル情報資源の検索」増訂第5版(2014、京都府立大学図書館学研究会、ISBN9784820413296)			
藤田田子著「図書館活用法: 情報リテラシーを身につけるために」新訂第3版(2011、日外ソシエツト、ISBN9784816929432)			
毛利和弘著「文献調査法: 調査・レポート・論文作成必携: 情報リテラシー読本」第8版(2019、毛利和弘、ISBN9784820418184)			
<b>7 成績評価の方法</b>			
①平常点(25%)、②総合テスト(25%)、③期末レポート(50%)を総合的に判断します。			
なお、第2回~第13回の授業において4回以上欠席した者、②総合テストの未受験者、③期末レポートの未提出者は、成績評価の対象としません。			
<b>8 その他</b>			

初年次教育「リベラルアーツ」講座

《秋学期》  
和泉キャンパス

科目ナンバー：OPIND111J		コーディネーター	
図書館活用法		文学部 三浦 太郎	
和泉	2単位 秋学期	水曜日	2時限
<b>1 授業の概要・到達目標</b> 1. 図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書や読書の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになる（図書館リテラシー） 2. まざまな情報、文獻、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようになる（情報リテラシー） 3. 入手した情報、文獻、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになる（学術リテラシー）			
<b>2 授業内容</b> ① 9月23日 イントロダクション（講義の概要、成績評価方法等の説明） 文学部専任教員 三浦 太郎 和泉図書館事務長 永井 順子 本講義は、大学での学習に不可欠な図書館活用法に必要な知識とスキルの習得を目的とします。書誌・索引、辞書・事典などのレファレンス資料に関する知識とその検索の技法について取り上げます。さらには、特定の課題に関するレポートの作成のために必要な情報や知識および文獻の検索法について解説します。最終的には、検索・入手された文獻（図書や雑誌記事・論文）をもとに、レポートの作成を求めます。また、成績評価について説明します。 ② 9月30日 図書館の機能と情報資源 文学部専任教員 三浦 太郎 本講義は、研究教育に必要な情報資源を選択・収集・組織・蓄積・提供することにより、学生の学習を支援する施設です。この講義では、図書館の基本的な機能と図書館情報資源に関する基本的な知識とスキルについて取り上げます。さらには、ある特定の主題に関する文獻を探査するために必要な探索戦略の構築が可能なスキルの習得を目的とします。 ③ 10月7日 レポート・論文の作成と図書館情報資源の活用 文学部専任教員 三浦 太郎 レポート（論文）の作成過程は、課題の設定と焦点化に始まり、情報の探査と収集、情報の加工をおして情報の生産と発信に至る過程です。このレポート作成過程の各段階において必要となる専門知識や情報を入力するために必要な百科事典や専門辞書の活用、および索引・表引、目録を利用した専門図書や雑誌記事（論文の執筆要領（引用文獻の記述方法を含む）についても詳しく取り上げます。 ④ 10月14日 図書館サービスと著作権 文学部専任教員 青柳 美治 この授業では、レポートや論文の執筆時に活用する図書、雑誌記事・論文、インターネット上の情報資源の利用にあり、理解が求められる著作権法を取り上げます。具体的には、法の概要を把握し、法に則して図書館が扱う資料・情報資源の利用の仕方を学びます。あわせて、レポートや論文で、他の文獻を引用するルールの理解も目指します。 ⑤ 10月21日 図書の歴史と図書館 文学部専任教員 三浦 太郎 図書の保存・利用の場として、図書館は歴史のどのようになしてきたのかを振り返るのでも、古代・中世・近世・近代それぞれの時代、洋東西を問わず、図書館にはさまざまな変遷がありました。ここでは、日本の江戸期から明治期にかけての図書館（文庫）を取り上げ、その特徴について理解したいと思います。 ⑥ 10月28日 文獻・情報の探し方（1） 図書館職員 吉田 千草・杉谷 美和 明治大学図書館蔵書検索システム（Web-OPAC）の検索方法、検索結果である目録・分類、請求記号や配架場所などのデータの読み取り方を身につけ、図書館の蔵書を効率よく使いこなせるようにします。また、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。 ⑦ 11月11日 文獻・情報の探し方（2） 図書館職員 吉田 千草・杉谷 美和 前回の内容をよまえ、本学図書館に所蔵しない資料を検索する方法や、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。 ⑧ 11月18日 文獻・情報の探し方（3） 雑誌論文① 図書館職員 小野 聡・塚塚 貴子 図書と雑誌の違いを理解したうえで、OPACの雑誌誌表データ、雑誌所蔵データの読み方の説明・演習を行います。説明には雑誌特有の誌名変遷、一括所属情報などを含みます。さらに雑誌の利用方法の説明もいたします。このことにより、効率よく雑誌を探し出して利用できるようになります。 ⑨ 11月25日 文獻・情報の探し方（4） 雑誌論文② 図書館職員 小野 聡・塚塚 貴子 図書館の蔵書を検索するOPACには、雑誌名で検索することはできません。その中の論文・記事を直接探査することはできません。論文・記事単位での検索を行うためには、OPACとは別の検索ツールを使う必要があります。その検索ツールの説明・演習を行います。このことにより、皆さんが必要とする論文を素早く簡単に探し、入手することができるようになります。			

生田キャンパス

科目ナンバー：OPIND111J		コーディネーター	
図書館活用法		理工学部 菅 啓次郎	
生田	2単位 秋学期	金曜日	4時限
<b>1 授業の概要・到達目標</b> 1. 図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書や読書の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになる（図書館リテラシー） 2. まざまな情報、文獻、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようになる（情報リテラシー） 3. 入手した情報、文獻、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになる（学術リテラシー）			
<b>2 授業内容</b> ① 9月25日 イントロダクション（講義の概要、成績評価方法等の説明） 理工学部専任教員 菅 啓次郎 生田図書館事務長 横井 淳子 教育・研究支援機関としての図書館は、大学の施設の中でも最も複雑多面的な機能を持っています。第1回目は本講義の概要、成績評価方法に関する説明等に加え、「有意義な大学生活を送るための上手な図書館の利用方法」についてもお話しします。 ② 10月2日 レポート・論文の書き方 理工学部専任教員 菅 啓次郎 レポートや論文を作成する際には、論者が論者が自らにならなように先行研究を参照する必要があります。授業では、論文の構成方法に加え、先行研究をどのようにしてレポートや論文の中に取り入れ、表示するのがよいのかということについてもお話しします。先行研究の趣旨を正しく理解し、適切な文献に引用すること、参照箇所を明示しておくことが大切です。 ③ 10月9日 本と教養1 理工学部専任教員 清岡 智比古 本と教養1の担当者はフランス文学、映画および都市文化の研究者。フランス映画に描かれる都市を、特に移民問題、宗教的対立や地域史といった具体的な側面から論じてきた。映像を読み解くにも、その鑑を鑑るには知識、総合芸術としての映画への理解をかねて、現代世界文化を考える。 ④ 10月16日 文獻・情報の探し方（1） 図書館職員 兎井 健 明治大学図書館蔵書検索システム（Web-OPAC）の検索方法、検索結果である目録・分類、請求記号や配架場所などのデータの読み取り方を身につけ、図書館の蔵書を効率よく使いこなせるようにします。また、本学図書館に所蔵しない資料を検索する方法や、ヒットした資料の利用方法などについて、具体的な説明・演習を行います。 ⑤ 10月23日 文獻・情報の探し方（2） 雑誌論文① 図書館職員 辻 薫 図書と雑誌の違いを理解したうえで、OPACの雑誌誌表データ、雑誌所蔵データの読み方の説明・演習を行います。説明には雑誌特有の誌名変遷、一括所属情報などを含みます。さらに雑誌の利用方法の説明もいたします。このことにより、効率よく雑誌を探し出して利用できるようになります。 ⑥ 10月30日 本と教養2 理工学部専任教員 渡辺 直太 本と教養2の担当者はアメリカ文学・文化の研究者。小説家トマス・ピンチンを専門とするのみならず、広くメディアの歴史やデザインに関心をもち、自作の本を制作している。教養が文化をとること、モノになる状態を見つめるのが、書物と文化との関係を探る。 ⑦ 11月13日 文獻・情報の探し方（3） 雑誌論文② 図書館職員 辻 薫 図書館の蔵書を検索するOPACには、雑誌名で検索することはできません。その中の論文・記事を直接探査することはできません。論文・記事単位での検索を行うためには、OPACとは別の検索ツールを使う必要があります。その検索ツールの説明・演習を行います。このことにより、皆さんが必要とする論文を素早く簡単に探し、入手することができるようになります。 ⑧ 11月20日 本と教養3 理工学部専任教員 清水 剛夫 本と教養3の担当者は近世日本思想史研究者。江戸時代と文化のありかたの歴史的変遷と、現代における書物と教育の関係を探る。一般的にはあまりなじみがない古典書材料に、書物と文化のありかたの歴史的変遷と、現代における書物と教育の関係を探る。 ⑨ 11月27日 文獻・情報の探し方（4） レファレンス資料 図書館職員 寺土 真理 図書館で所蔵する様々な資料の中には、効率よく調べものをするのに適した図書が存在し、参考図書、あるいはレファレンスブックと呼ばれています。学習のための調べものはインターネット検索だけでは不十分な場合があります。この回は、図書およびオンラインのレファレンス資料を活用して事例や文獻について調べ方、また、論文・レポートのテーマ設定をし、その基本情報を入力する方法を学びます。			

⑩ 12月2日 文獻・情報の探し方（5） レファレンス資料 図書館職員 矢野 恵子・土田 大輔 図書館で所蔵する様々な資料の中には、効率よく調べものをするのに適した図書が存在し、参考図書、あるいはレファレンスブックと呼ばれています。学習のための調べものはインターネット検索だけでは不十分な場合があります。この回は、図書およびオンラインのレファレンス資料を活用して事例や文獻について調べ方、また、論文・レポートのテーマ設定をし、その基本情報を入力する方法を学びます。	図書館職員 矢野 恵子・土田 大輔
⑪ 12月9日 文獻・情報の探し方（6） 新聞 図書館職員 久保 和義・久松 直子 新聞は印刷物のはかデータベース等を使って検索・閲覧することが出来ます。うまく使いこなせば事例や事件を調べただけでなく、世論などその時代における「空気」のようなものもつかうことが出来る有用なツールです。この授業では演習を行い、新聞のデータベースを使いこなす技術が身につくよう練習します。	図書館職員 久保 和義・久松 直子
⑫ 12月16日 文獻・情報の探し方（7） インターネット 図書館職員 角 祐二・藤田 賢一 インターネット上の情報の種類、探索方法、特性、評価などについて説明し、検索エンジンについても理解を深めます。また、インターネットを通じて利用する重要な情報として、電子ジャーナル、電子ブック、機関リポジトリについても説明・演習を行います。	図書館職員 角 祐二・藤田 賢一
⑬ 1月13日 文獻・情報の探し方（8）（1）～（7）まとめ 図書館職員 畑野 蘭子・桑原 理恵 これまでの授業で学んできた様々な文獻・情報の探し方を振り返ります。それらを総合的に活用して、あるテーマを調査するのに必要な文獻を探し出す演習を行います。日々の学習や研究に役立つ文獻検索技術が身につくよう改めて練習し、自身の調査・検索における弱点を見つけ出し、さらにステップアップできる機会を設けてください。	図書館職員 畑野 蘭子・桑原 理恵
⑭ 1月20日 まとめ総合テスト a：テスト、b：まとめ 文学部専任教員 三浦 太郎 図書館職員 山口 樹枝・桑原 理恵 あるテーマについて調査し自分の考えをまとめて表現することは、レポート・論文の作成という学習の場に限らず、日常生活においても、また社会に出てからも必要な技術です。それを確実なスキルとして身につけるために、最後の総まとめとして、これまで学んだ文獻・情報の探し方や著作権等について確認します。	文学部専任教員 三浦 太郎 図書館職員 山口 樹枝・桑原 理恵
3 履修上の注意 講義（概論）と演習を組み合わせて、知識の習得だけでなく活用する術を身に付けることを目指した授業で、各回のテーマを、教員と図書館の職員が分かれて担当します。 演習には、実際にパソコンを操作してデータベースの検索等を行うため、履修にあたっては、MIND利用講習会を受講済みであることを必須とします。	
4 準備学習の内容 準備として、各回のテーマ、シラバスに記載された内容に関連した確認（本を読む、実際にツールに触れてみるなど）をしてきてください。また、授業後は、講義内容・配付資料に基づいて振り返り、得た知識を定着させるよう努めてください。	
5 教科書 教材として印刷資料を配付します。	
6 参考書 浜井聡著「これからレポート・卒論を書く者へのための」第2版（2017、共立出版、ISBN978432005983） 佐藤智博著「アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門」第2版（2012、慶應義塾大学出版会、ISBN9784766119063） 高橋祐樹著「デジタル情報資源の検索」増訂第5版（2014、京都図書館情報学研究会、ISBN9784820413226） 藤田節子著「図書館活用術：情報リテラシーを身につけるために」新訂第3版（2011、日外アソシエーツ、ISBN9784816923432） 毛利和弘著「文獻調査法：調査・レポート・論文作成必携：情報リテラシー読本」第8版（2019、毛利和弘、ISBN9784820418184）	
7 成績評価の方法 ①平常点（25%）、②総合テスト（25%）、③期末レポート（50%）を総合的に判断します。 なお、第2回～第13回の授業において4回以上欠席した者、②総合テストの未受験者、③期末レポートの未提出者は、成績評価の対象としません。	
8 その他	

初年次教育・リベラルアーツ講座

⑩ 12月4日 本と教養4 理工学部専任教員 頼田 崇 本と教養4の担当者は哲学者、環境人文学者、民俗研究とともに、生活の中に埋めこまれた考え方、感じ方、人とのつながり、人と土地や風土の関わりなどを、現場調査をうけて考えてきた。ここでは環境人文学的思考を念頭に置き、現代の教養がどぞべき方向を定める。	理工学部専任教員 頼田 崇
⑪ 12月11日 文獻・情報の探し方（5） 専門情報・新聞 図書館職員 寺土 真理 新聞は印刷物のはかデータベース等を使って検索・閲覧することが出来ます。うまく使いこなせば事例や事件を調べただけでなく、世論などその時代における「空気」のようなものもつかうことが出来る有用なツールです。この授業では演習を行い、新聞を使いこなす技術が身につくよう練習します。また、自然科学分野における「文獻・情報」には、弱音や規格などがあります。これらの専門資料について、それぞれの特徴、探索・入手方法を学びます。	図書館職員 寺土 真理
⑫ 12月18日 図書館サービスと著作権 文学部専任教員 青柳 美治 この授業では、レポートや論文の執筆時に活用する図書、雑誌記事・論文、インターネット上の情報資源の利用にあり、理解が求められる著作権法を取り上げます。具体的には、法の概要を把握し、法に則して図書館が扱う資料・情報資源の利用の仕方を学びます。あわせて、レポートや論文で、他の文獻を引用するルールの理解も目指します。	文学部専任教員 青柳 美治
⑬ 1月8日 文獻・情報の探し方（6） インターネット 図書館職員 齋木 信一 インターネット上の情報の種類、探索方法、特性、評価などについて説明し、検索エンジンについても理解を深めます。また、インターネットを通じて利用する重要な情報として、電子ジャーナル、電子ブック、機関リポジトリについても説明・演習を行います。	図書館職員 齋木 信一
⑭ 1月15日 まとめ総合テスト a：テスト、b：まとめ 理工学部専任教員 菅 啓次郎 図書館職員 齋木 信一・荒井 健 あるテーマについて調査し自分の考えをまとめて表現することは、レポート・論文の作成という学習の場に限らず、日常生活においても、また社会に出てからも必要な技術です。それを確実なスキルとして身につけるために、最後の総まとめとして、これまで学んだ文獻・情報の探し方や著作権等について確認します。	理工学部専任教員 菅 啓次郎 図書館職員 齋木 信一・荒井 健
3 履修上の注意 講義（概論）と演習を組み合わせて、知識の習得だけでなく活用する術を身に付けることを目指した授業で、各回のテーマを、教員と図書館の職員が分かれて担当します。 演習には、実際にパソコンを操作してデータベースの検索等を行うため、履修にあたっては、MIND利用講習会を受講済みであることを必須とします。	
4 準備学習の内容 準備として、各回のテーマ、シラバスに記載された内容に関連した確認（本を読む、実際にツールに触れてみるなど）をしてきてください。また、授業後は、講義内容・配付資料に基づいて振り返り、得た知識を定着させるよう努めてください。	
5 教科書 教材として印刷資料を配付します。	
6 参考書 浜井聡著「これからレポート・卒論を書く者へのための」第2版（2017、共立出版、ISBN978432005983） 佐藤智博著「アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門」第2版（2012、慶應義塾大学出版会、ISBN9784766119063） 高橋祐樹著「デジタル情報資源の検索」増訂第5版（2014、京都図書館情報学研究会、ISBN9784820413226） 藤田節子著「図書館活用術：情報リテラシーを身につけるために」新訂第3版（2011、日外アソシエーツ、ISBN9784816923432） 毛利和弘著「文獻調査法：調査・レポート・論文作成必携：情報リテラシー読本」第7版（2016、毛利和弘、ISBN9784820416012）	
7 成績評価の方法 ①平常点（25%）、②総合テスト（25%）、③期末レポート（50%）を総合的に判断します。 なお、第2回～第13回の授業において4回以上欠席した者、②総合テストの未受験者、③期末レポートの未提出者は、成績評価の対象としません。	
8 その他	

初年次教育・リベラルアーツ講座